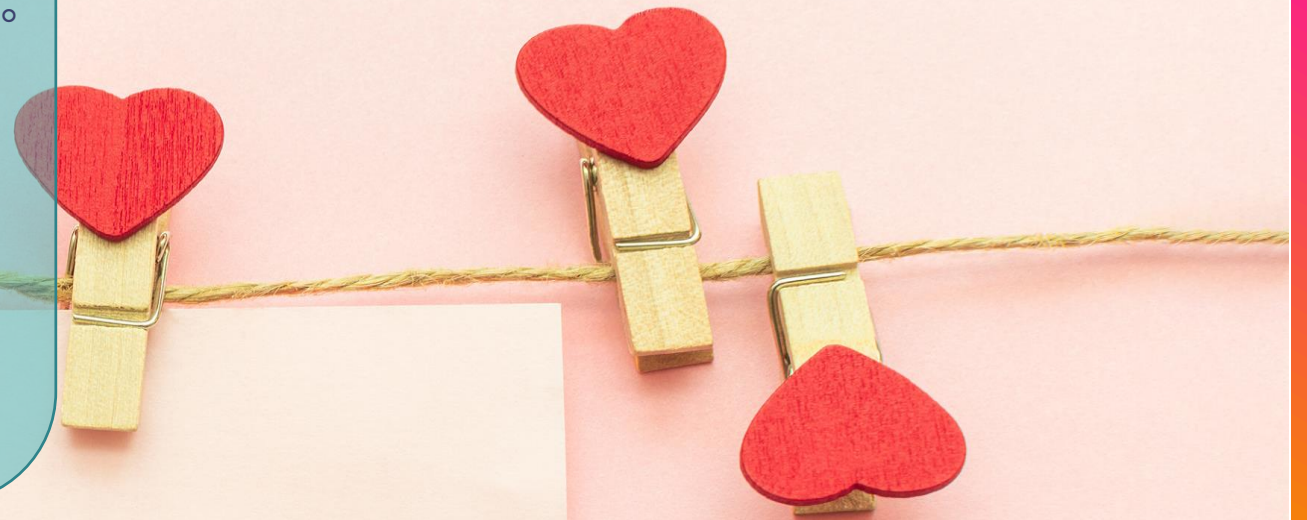


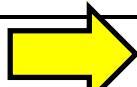
専門的な内容を深く知るというよりは、心理学の研究をするということはどのようなプロセスで進むものなのかについて、体験的に学んでいきます。5人位の小グループに分かれて自分たちでテーマを決め、文献を読み、データを収集し、分析しレポートにまとめポスター発表をする、という一連の流れを経験していきます。「リテラシー入門」や「心理学概論」、「心理学実験Ⅰ」や「心理学統計法」などでの学びが、具体的な研究という営みのなかでどのように生かされていくのかを実感してもらう科目となります。

2022年度 第4回教学実践フォーラム
総合心理学部の基礎演習について

安田裕子



カリキュラム上の「基礎演習Ⅰ」の位置づけ

科目区分			必要単位数		
外国語ユニット			① 8 単位以上		
教養科目			② 24 単位以上		
基礎ユニット			③ 20 単位以上		
専門科目	認知・行動ユニット	知覚・認知領域	④専門 科目か ら 30 単 位以上	④および ⑤を満た したうえ で 40 単 位以上	
		行動・科学領域			
	発達・キャリアユニット	発達・支援領域			
		キャリア・組織領域			
	社会・文化ユニット	社会・共生領域			
		文化・共生領域			
アドバンスド 科目	英語アドバンスドユニット		⑤6 単位 以上		
	研究法アドバンスドユニット				
	プロジェクト研究ユニット				
	特殊講義ユニット				
小集団科目	実験・実習ユニット		⑥1 単位以上		
		演習・卒業研究ユニット	⑦4 単位以上		

授業の概要と方法

基礎演習Ⅰでは、1回生を対象にしたProject Based Learning（PBL）型授業として、大学4年間の学びへの移行支援をはじめ、キャリア形成を取り入れつつ、3年後に執筆する卒業研究を見据え、「研究」の入門的・基礎的な内容を学ぶ。グループによる協働的な学習の形態により実施する。

メンバーの多様な関心事の共有とそこからの問題発見、問題解決のための研究目的および仮説・リサーチクエスションの設定、研究方法の選択、調査や実験などによるデータの収集、データの分析、結果のまとめ・解釈、結果に基づき問題や研究目的に即した考察、研究成果の発表、まで行う。「広い意味での研究的マインド」と「研究遂行のための一連のアクションの型」を学び、身につける。

フェーズ1「大学での学びに移行する」（1～3回目）、フェーズ2「読む・調べる」（4～6回目）、フェーズ3「収集する・分析する・表現する」（7～9回目）、フェーズ4「結果をまとめる・学びを統合する」（10～14回目）、フェーズ5「発表する・リフレクションする」（15回目）という流れにより段階的に学修する。

なお、当該授業は、「研究参加クレジット制度」対応科目である。成績評価方法欄もあわせて参照のこと。

受講生の到達目標

1. **研究の型**を理解し、研究をまとめることができる。
2. 目的の設定をはじめとした**研究の手続き**を理解し、研究を進めていくことができる。
3. グループメンバーで**協働して、立案・計画して探究した内容を、発信**することができる。

総合心理学部 「基礎演習Ⅰ」 学びのしかけ

- 仲間づくり、協働性の醸成
- キャリア形成支援
- 研究参加クレジット制度
- 中間報告会・ポスター発表大会
- 授業運営のクラス間共有
- 『総合心理学部学びのガイドブック』

授業スケジュール

- 1 大学での学びへの移行 (1) / シラバスの理解、研究参加クレジット、教員の自己紹介、自己紹介
- 2 大学での学びへの移行 (2) / 未来を拓く、情報倫理
- 3 大学での学びへの移行 (3) / 学びのセルフアセスメントの予告、興味関心の掘り起こし
- 4 図書館ガイダンス / 文献検索、論文探し
- 5 論文の共有・議論、研究内容・目的の決定 (1) / グループ誕生、論文紹介、自己理解・他者理解
- 6 論文の共有・議論、研究内容・目的の決定 (2) / 興味関心の共有、研究テーマの検討と決定
- 7 研究方法の決定、データ収集の計画 / 文献・調査・実験
- 8 データの収集・分析 (1) / データ収集、データ分析
- 9 データの収集・分析 (2)、学びのセルフアセスメント / データ収集、データ分析、セルフアセスメントによるキャリア展望
- 10 データの集計とまとめ、レジュメづくり (1) / データの整理・集計、レジュメ作成の留意点
- 11 データの集計とまとめ、レジュメづくり (2) / 図・表によるデータのまとめ、中間報告に向けた準備
- 12 中間報告会 / パワーポイントとレジュメによる発信、他の発表グループへのコメント
- 13 ポスター作成 (1)、キャリア形成 (1) / デジタルポスターの作成、学びのセルフアセスメント・シートを活用した個人面談
- 14 ポスター作成 (2)、キャリア形成 (2) / デジタルポスターの作成、学びのセルフアセスメント・シートを活用した個人面談
- 15 ポスター発表大会 / ポスターによる発信、他の発表グループへのコメント

フェーズ①
フェーズ②

フェーズ③

フェーズ④

フェーズ⑤

成績評価方法

1. グループ研究の成果についてまとめたレポート（30点）※1
2. グループ活動への積極的関与度（60点：4点×15回）※2
3. プレゼンテーション（10点：5点×2回）※3
4. 研究参加クレジットの獲得（5点加点）※4

によって総合的に評価します。

※1 レポートは、研究の型の観点から評価します。（到達目標1）

※2 グループ活動への積極的関与度は、授業ごとにリフレクションを行ったもので評価します。毎回manaba + R上にアップロードするかたちで提出します。（到達目標2）

※3 中間報告会とポスター発表会の合計2回により、評価します。（到達目標3）

※4 授業外で「研究参加クレジット制度」対象研究に参加し、必要クレジット数を満たすと、成績に5点加算します。詳しくは、manaba + Rのコース「研究参加クレジット」を参照してください。

受講および研究に関するアドバイス

- 本講義は、総合心理学部講義科目・リテラシー入門との連携が図られています。よって、**リテラシー入門で得たリテラシースキルを随時活用することが望まれます。**また、**基礎演習Ⅰの次のステップとして、後期には基礎演習Ⅱを受講します。**入門的・基礎的な力を身につけるべく、しっかりと学修することを期待します。
- グループで研究を進めていきます。遅刻・欠席はしないようにしてください。
- グループメンバーで連絡先を共有し、連絡を取り合って、報告・相談し合う体制をつくりましょう。
- ノートパソコンを持参することを推奨します。

総合心理学部 「基礎演習Ⅰ」 特 徴

- 授業運営のクラス間共有
- 仲間づくり、協働性の醸成
- キャリア形成支援
- 研究参加クレジット制度
- 『総合心理学部学びのガイドブック』
- 中間報告会・ポスター発表大会

特 徴：授業運営のクラス間共有

□ 30名弱／1クラス、全10クラス

□ 教員用テキストを使用し、
クラス間での授業運営の共有
をはかる。

□ メーリングリストでの情報や
疑問と解決の共有をはかる。

基礎演習 第1回目 授業案

テーマ	大学での学びへの移行 (1)	
概要	大学1回生の学びのベースとなるクラスのメンバーと知り合う。	
到達目標	1. 小集団学習「基礎演習」の内容やスケジュールについて知る。 2. 自分のことをメンバーに伝え、また、メンバーに関心を向ける。	
時間	内容	備考
導入 (10分)	1. 教員の自己紹介 2. 第1回授業の説明 (授業の目的と流れ)	・専門分野、興味関心など、自由に自己紹介。
展開1 (35分)	3. 「基礎演習」の説明 ・授業の概要と方法をはじめ、到達目標、授業スケジュールなどの説明。 ・「研究参加クレジット制度」の説明。 ・『総合心理学部学びのガイドブック』を毎回持参することを共有。	・シラバス参照。 ・「研究参加クレジット制度」の説明は共有スライドを用いて。 ・『総合心理学部学びのガイドブック』を必携することへの意識づけ。
展開2 (40分)	4. 自己紹介 (1人1分程度)	・メモをとるよう教示。
展開3 (5分)	5. 授業のリフレクション ・基礎演習への臨み方、自己紹介をし合うことによる気づき、など。	・manaba+R上にアップロード。
教材	『総合心理学部 学びのガイドブック』(全回を通して使用・持参)、シラバス	シラバスを印刷して配布。
評価	授業のリフレクション (4点)	
課題	・授業のリフレクションを提出する (授業中にできなかった場合)。 ・『総合心理学部 学びのガイドブック』Ⅱ章4、Ⅲ章を読む。	
その他	・『総合心理学部 学びのガイドブック』Ⅱ章4「研究に参加する」、Ⅲ章「グループで学習しよう」を活用する。 ・小集団学習としての「基礎演習Ⅰ」の重要性を理解する。	

特 徴：仲間づくり、協働性の醸成

□ クラス機能を有する。

-オリター団による支援

-サブゼミ活動（月4）

※総合心理学コロキウムを案内

-いばらき&立命館DAYでの出店

-セミナーハウスでの合宿

（新型コロナウイルス禍では見合わせ）

□ 学びの移行支援を3回行う。

『未来を拓く』の活用（2回目）

基礎演習 第1回目 授業案

テーマ	大学での学びへの移行（1）	
概要	大学1回生の学びのベースとなるクラスのメンバーと知り合う。	
到達目標	1. 小集団学習「基礎演習」の内容やスケジュールについて知る。 2. 自分のことをメンバーに伝え、また、メンバーに関心を向ける。	
時間	内容	備考
導入 (10分)	1. 教員の自己紹介 2. 第1回授業の説明（授業の目的と流れ）	・専門分野、興味関心など、自由に自己紹介。
展開1 (35分)	3. 「基礎演習」の説明 ・授業の概要と方法をはじめ、到達目標、授業スケジュールなどの説明。 ・「研究参加クレジット制度」の説明。 ・『総合心理学部学びのガイドブック』を毎回持参することを共有。	・シラバス参照。 ・「研究参加クレジット制度」の説明は共有スライドを用いて。 ・『総合心理学部学びのガイドブック』を必携することへの意識づけ。
展開2 (40分)	4. 自己紹介（1人1分程度）	・メモをとるよう指示。
展開3 (5分)	5. 授業のリフレクション ・基礎演習への臨み方、自己紹介をし合うことによる気づき、など。	・manaba+R上にアップロード。
教材	『総合心理学部 学びのガイドブック』(全回を通して使用・持参)、シラバス	シラバスを印刷して配布。
評価	授業のリフレクション（4点）	
課題	・授業のリフレクションを提出する（授業中にできなかった場合）。 ・『総合心理学部 学びのガイドブック』Ⅱ章4、Ⅲ章を読む。	
その他	・『総合心理学部 学びのガイドブック』Ⅱ章4「研究に参加する」、Ⅲ章「グループで学習しよう」を活用する。 ・小集団学習としての「基礎演習Ⅰ」の重要性を理解する。	

特 徴：キャリア形成支援

- 早期からのキャリア支援として、**学びのセルフアセスメント**を年度内2回行う。
 - 各学期の**9週目**はキャリアウィーク
- **学びのセルフアセスメント**をいかし、**面談**を実施する（13回目、14回目）。

「学びのセルフ・アセスメント」

これはみなさんが自分自身の生活や勉強を振り返り、これからの生活と勉強をより豊かに、楽しくしていくための質問です。あなたが、**あなたのために、あなた自身にする質問です**。あなたは、夢と希望に満ちてこの2か月を過ごしてきたかもしれません。あるいは挫折と妥協の繰り返しだったかもしれません。この2か月の間には楽しい出来事も厳しい出来事もあったでしょう。楽しかった出来事を思い出してみましょ。そして厳しかった出来事も思い出してみましょ。そして今あなたは立命館大学の総合心理学部の学生としてここにいます。

さて、この2か月の間にあなた自身が興味を持って取り組んできたことは、どんなことだったでしょう。自ら進んで好奇心を持って、取り組んだことはなんでしょう。勉強だけに限らず見つけてみましょう。

例えば、授業、自習、図書館での勉強、友人や先輩との交流、アルバイトに取り組んだことかもしれません。そこで、見つけた大切にしたいことは何でしょう。

この「学びのアセスメント」はあなた自身が学びの振り返りをすることを目的にしています。成績とは関係ありませんので率直に書いてみてください。

1回生春学期

1. この2か月の間に取り組んだこと（200字程度、上限はありません）
2. そこで、見つけた大切にしたいこと（400字以上、上限はありません）
3. 次に、これからの春学期中、あるいは1回生の間に取り組みたいこと、試してみたいことはどんなことでしょう。（400字以上、上限はありません）

特 徴：研究参加クレジット制度

【制度の概要】

この制度は、1,2回生を対象に、**心理学の専門的なテクニックを駆使した実証的研究や多様な研究活動への参加を通して、学生のみなさんの思考力を育成し、自主的で自律的な学修態度を養うことを目的**としています。

授業外で実施される研究活動に参加すると、クレジットが与えられます。獲得したクレジット数が一定の基準を満たすと、あらかじめ指定された複数の科目の成績の一部に反映されます。基準は科目によって異なります。

※ 1 クレジット（実験・調査への参加によるもの）獲得することが、単位取得要件となっている。点数加算の達成基準は6クレジット（うち実験・調査への参加によるもの）の獲得

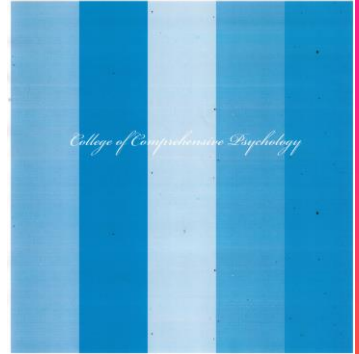
特 徴：研究参加クレジット制度

【制度の意義】

- **研究の「生みの苦しみ」を知る**／4回生になって卒業研究に取り組むとき、ほとんどの学生が抱く悩みは、研究テーマをどうするかということです。自分の研究を進めるためには、リサーチ・クエスチョンを適切に定める必要があります。しかし、それは最初から容易にできることではありません。実際に研究に参加してみることが、自分の研究のイメージを作ることの助けになるかもしれません。（『総合心理学部 学びのガイドブック』Ⅱ章3,4参照）
- **研究活動・研究者と接触する**／自分の研究を実施している先輩や教員に接することによって、必ず何らかの刺激を受けると思います。研究参加後に研究内容についての説明がありますから、わからないことやもっと深く知りたいことがあったら積極的に質問しましょう。そんななかで、自分の研究についても何かヒントが得られるかもしれません。

特 徴：『総合心理学部学びのガイドブック』

総合心理学部
学びのガイドブック



□『総合心理学部学びのガイドブック』を作成・活用する。

I 章 総合心理学部での学び

II 章 研究をはじめよう

III 章 グループで学習しよう

IV 章 アカデミック・スキルを身につけよう

V 章 評価に向き合おう

VI 章 社会と未来を拓く

付録 1 総合心理学部キーワード

付録 2 文献について理解しよう

付録 3 論文・レポートの書き方—心理学の実験研究・質問紙調査研究の場合

特 徴：『総合心理学部学びのガイドブック』

総合心理学部
学びのガイドブック



College of Comprehensive Psychology

□『総合心理学部学びのガイドブック』を作成・活用する。

目 次

はじめに 総合心理学部で「私」の学びをつくりだそう

I 章 総合心理学部での学び

1. 総合心理学部における学び	2
2. 「総合的」な人間力を身につけること	
(1) 捨てる！勇気 一脱学習	4
(2) 知らないと思うこと 一知は謙虚である（無知の知）	4
(3) 他者とのかわり方で学ぶこと キー・コンピテンシーのこと	4
(4) 意味づけて語る力を身につける	4
(5) みなさんは未来からの留学生	5
(6) 参加・参画する力	5

教員の研究分野一覧

これまで総合心理学部に貢献してくださった先生方

II 章 研究をはじめよう

1. 総合心理学部で学ぶということ 一その意義について	
(1) はじめに	7
(2) 社会生活の変容と「人間」の総体を対象とする課題の広がり	7
(3) 心理 一人間系分野への期待の高まり	7
(4) 心理学と他の諸科学・諸分野との交流	7
(5) 心理学そのものの総合的発展	8
コラム1 錯視の華	9
コラム2 なぜ世界はこんなに美しいのか？	10
2. 学ぶことのおもしろさ 一自らを動機づける	11
コラム3 やる気のヒント	13
コラム4 認知情報処理と身体およびコミュニケーション	14
3. 研究の進め方 一量的研究と質的研究	
(1) 研究の出発点	15
(2) 心理学研究の2つの研究法	15
(3) 量的研究と質的研究の手順	16
コラム5 何かを「できる」とは？	18
コラム6 不合理な思考	19
4. 研究に参加する	
(1) 「生みの苦しみ」	20
(2) 研究に参加することの意義	20
(3) 「研究参加クレジット制度」を活用しよう	20
コラム7 心のデザイン 一認知科学の展開	21
コラム8 記憶と判断の心理学	22
5. 研究倫理とその実践 一研究者も対象者も守るために	
(1) コピー&ペーストと盗用（剽窃）の禁止	23
(2) 対象者の人権への留意	24

コラム9 しなやかで芯のある自己表現 一機能的アサーション	27
コラム10 結婚は幸せをもたらすものか	28

III 章 グループで学習しよう

1. グループ学習における力動	
(1) 効果と成長、その要因	29
(2) グループ活動を阻む要因とその解決	31
コラム11 いかに生き、いかに働くか？	34
コラム12 エラーを起こす原因は、若者と高齢者では異なる？	35
2. グループ学習の進め方	
(1) 学習の流れ	36
(2) ツールと技法	37
コラム13 子どもから正確に話を聴くには	40
コラム14 司法臨床	41
3. グループ学習と情報共有	
(1) 情報共有の価値（ほう・れん・そうのススメ）	42
(2) 情報共有のための ICT (Information and Communication Technology) の活用	43
コラム15 事実と体験のジレンマ	46
コラム16 行動観察から子どものころを探る	47
4. グループ学習における協同	
(1) 学び合いと教え合い	48
(2) 発表における役割分担	49
コラム17 子どものニーズを大事にする学習支援研究 一「本場の」問題に向き合う教育心理学	51
コラム18 クライアントを主人公とした心理療法	52

IV 章 アカデミック・スキルを身につけよう

1. ノートをとる力 一理解を積み上げよう	
(1) 講義のノートをとる	53
(2) 作業用ノートをつくらう	54
コラム19 学校での自殺関連行動の予防教育	57
コラム20 立命館心理学史から	58
2. 対話する力 一自己と向き合おう	
(1) 対話とは何か？	59
(2) 対話の前提	59
(3) 対話のスキルと訓練法	60
コラム21 メディア効果研究	63
コラム22 精神医学における自己愛	64
3. 情報を収集する力 一文献とデータに接近しよう	
(1) 図書館を活用する	65
(2) 情報を生かす	66
コラム23 産みのテーマから	69
コラム24 法と心理の交差点からみえるもの	70
4. 読む・整理する力 一問いを立てよう	
(1) 構造を理解する	71

(2) 複眼的・批判的に考える	
コラム25 脳波を観て心を知る？	
コラム26 想像力を育もう	
5. 分析する力 一データに忠実になろう	
(1) 量で理解する／質で理解する	
(2) 数字（量的データ）をよむ	
(3) ことば（質的データ）をよむ	82
コラム27 原因不明の心身の不調をどう考えるか？ 一心身医学という領域	85
コラム28 「当たり前」を問い直す 一文化人類学への招待	86
6. プレゼンテーションする力 一聞き手を意識しよう	
(1) レジュメを作成する	87
(2) 口頭発表する	90
コラム29 多様性を尊重する社会をつくる	93
7. レポートや論文を書く力（ライティング） 一論理的に伝えよう	
(1) 情報発信手段としての論文 一学びの成果に自信と誇りをもとう	94
(2) 論文・作文 一文書の型を意識しよう	95
(3) 論文の書き方	97
コラム30 モチベーションとどう付き合うか？	100

V 章 評価に向き合おう

1. 評価の効用	
(1) 立命館大学の成績評価の仕組み	101
(2) 「評価」と向き合うために	102
(3) 自分で自分を評価すること	102
(4) クラスでの相互評価	102
コラム31 「行動経済学」とは？	104

VI 章 社会と未来を拓く

1. 人生の変わり目としての大学時代	105
2. 大学生活で求められる2つの将来展望	105
3. 大学で身につけておきたい力 一社会からの期待と専門性をめぐる	105
(1) 社会人基礎力とは	105
(2) 専門性を発揮するとは	106
4. 大学卒業後の進路とキャリア発達	107
コラム32 暴力	108
コラム33 心理療法・カウンセリングの効果を生み出すメカニズムを探る 一感情変容のプロセスと効果の研究	109
コラム34 うつ病になりやすい環境とは？	110

付録1 総合心理学キーワード	111
----------------	-----

付録2 文獻について理解しよう	142
-----------------	-----

付録3 論文・レポートの書き方 一心理学の実験研究・質問紙調査研究の場合	178
--------------------------------------	-----

特 徴：中間報告会・ポスター発表大会

□ 12回目：中間報告会（クラス単位）

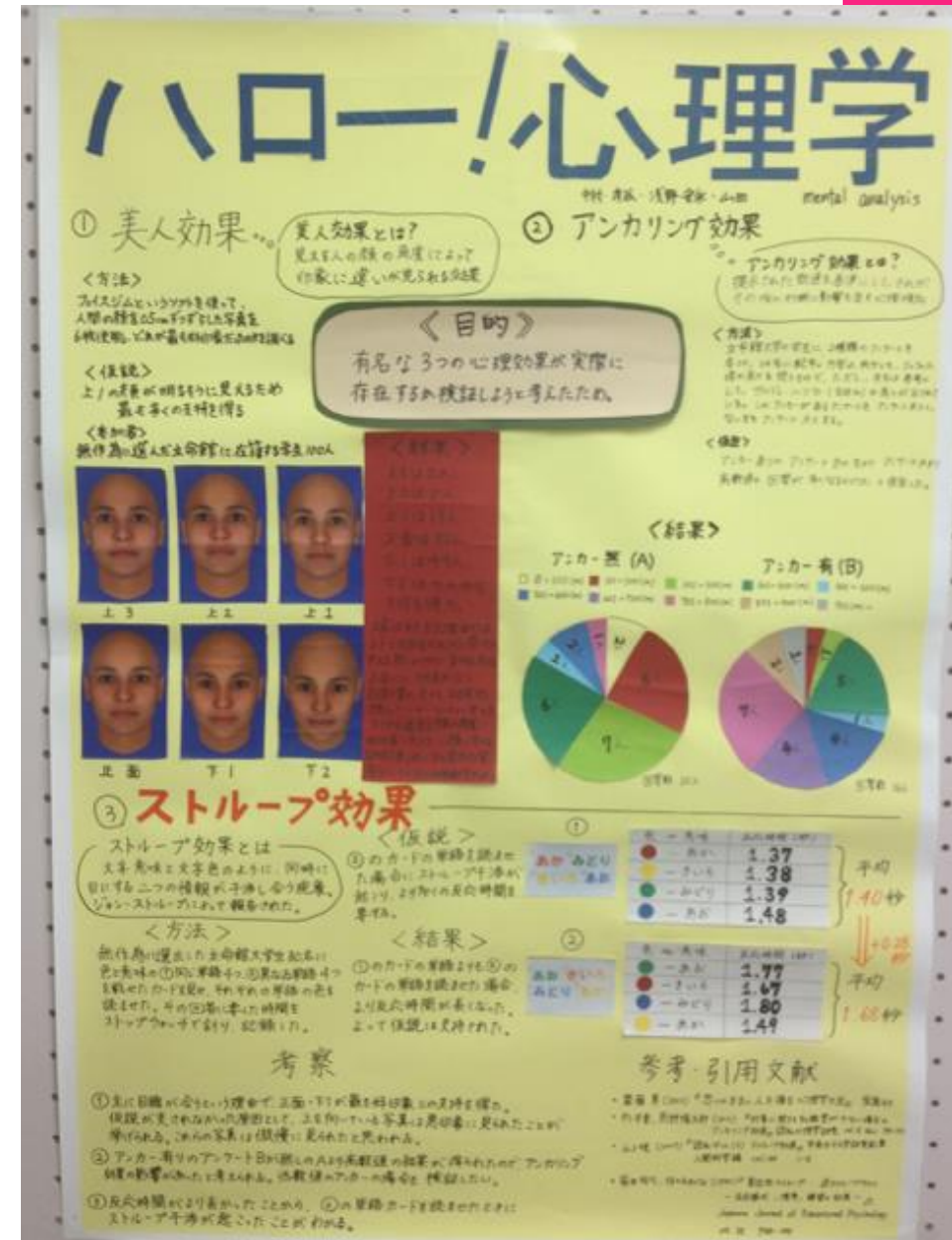
- **パワーポイントとレジューメ**を用いて

□ 15回目：ポスター発表大会（学年単位）

- **手作り**でポスターを作成

- 3つのグループにわけて

- B棟1階カンファレンスホール等にて



ポスター発表大会 (2016年)

ポスター発表大会のまわし

- 各グループで、2名ずつ3組 (X組、Y組、Z組) にわかれ、2名1組で発表を行います。1組あたりのポスター発表時間は45分。3巡させます。

	X組	Y組	Z組
1巡目 (13時15分～14時00分)	発表	閲覧	(待機)
2巡目 (14時05分～14時50分)	(待機)	発表	閲覧
3巡目 (14時55分～15時40分)	閲覧	(待機)	発表

会場はA3-1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25で過ごします。



共有・検討課題

□ 科目間連携・接続の確認

- 「リテラシー入門」（1回生春学期）との連携
- 「基礎演習Ⅱ」（1回生秋学期）、「展開演習」（2回生秋学期）との接続

□ 研究倫理についてどこまで伝えるかということ →ステップを踏んで

- 総合心理学部・人間科学研究科における研究倫理審査

□ ゼミを担当する教員との出会いの機会としての機能？

ご清聴ありがとうございました